

# 地質図からみる高島とその歴史

## 高島の形成

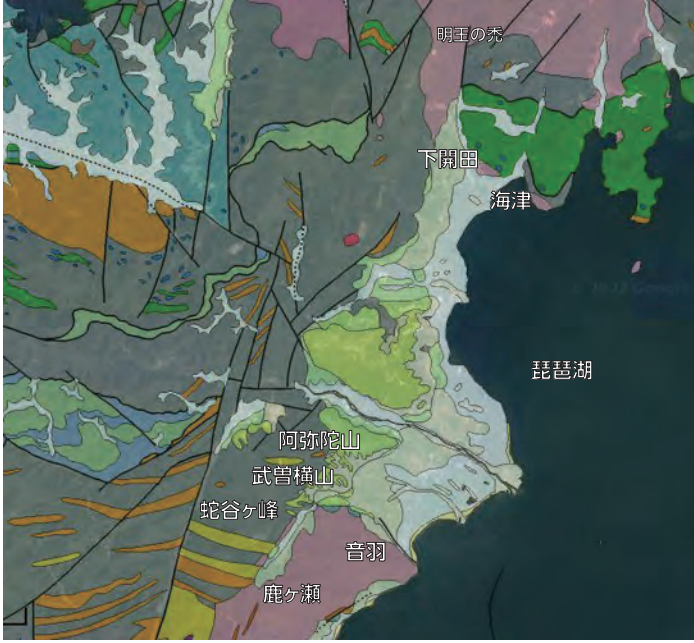
日本列島の原形は、海底で土砂や粘土、生物の死骸などが厚く堆積した層であったと考えられています。海洋プレートが大陸プレートの下に沈みこむときに、その堆積層の一部が剥ぎ取られ大陸プレートに付いたもの(付加体)が拡大・成長することで日本列島が形成されていきます。

高島は主に1〜2億年前の中生代の付加体(灰色)からなり、玄武岩や石灰岩からなる古生代の付加体(緑色、青色)や地中深くのマグマが冷えて固まった花崗岩地帯(ピンク色)も一部で見られます。そして、それらが地殻

## 地質の特徴とその歴史

変動・断層活動によって隆起沈降を繰り返し、山地が形成され、河川による浸食とその堆積によって平野が形成され、現在の高島の地形が作り上げられてきました。

マキノ町海津から下開田にかけて石灰岩層(青色)が点在しています。『大崎寺文書』や『下開田区有文



地質図

※20万分の1日本シームレス地質図V2(産総研地質調査総合センター、URL <https://gbank.gsj.jp/geonavi/>)を使用し、市で写植加工。

書』などによると江戸時代からこの地域では石灰の生産が盛んであったことが分かっています。『高島郡誌』には、この地域での石灰の生産が市域での生産の約87%を占めたことが記録されています。

比良山地や赤坂山周辺では、もろく浸食を受けやすい花崗岩が露出した風景を見ることができます。



白坂(音羽)



虎斑石と高島硯

鹿ヶ瀬から音羽にかけて、花崗岩のバッドランド(浸食された地形)を見ることができ、赤坂山の北には花崗岩が崩落した場所があり、「明王の禿」という名称で呼ばれています。

また安曇川町の阿弥陀山や武普横山、蛇谷ヶ峰周辺で取れる堆積岩の一種である粘板岩(虎斑石)は、江戸時代から昭和にかけて高島硯に加工され高島の名産品として各地に出荷されていました。

このように高島では地質が深くかかわった産業、名産品があり、また風景が作り出されています。

文化財課 ☎(25)85559

## 編集感

令和5年1月号発行しました。本年もよろしくお願いたします。

新しい年を迎え、新年の抱負を掲げる人も多いのではないのでしょうか。私の抱負は運動を頑張って動ける体を取り戻すことです。

皆さんの今年の抱負はなんですか。来年の今頃に今年こそは!とならないように、一緒に頑張りましょう。(R)